

表1 佐伯湾赤潮プランクトン調査結果(H30.6.21)

単位:細胞数/cc

採集地点	調査時間	水深 (m)	水温 (°C)	塩分 (PSU)	DO (mg/l)	シャットネラ spp.	カレニア ・ミキモイ	ヘテロシグマ ・アカシオ	コクロディニウム ホリウロコイテス
1.長田沖 アクアファーム	8:17	0	21.0	32.42	8.2	0	0	0	0
		5	20.3	33.82	7.5	0	150	0	0
2.塩内～片白島	8:38	0	20.1	20.41	7.8	0	0	0	0
		2	20.4	33.56	7.4	0	150	0	0
3.小田代	8:57	0	20.7	26.89	7.7	0	71	0	0
		2	21.0	32.80	7.8	0	770	0	0
4.沖松浦漁港	9:14	0	21.2	23.42	8.0	0	0	0	0
		2	21.2	33.36	8.0	0	550	0	0
		3.2	20.8	34.05	8.3	0	840	0	0
		5	20.5	34.13	8.1	0	85	0	0
		9	20.0	34.20	6.6	0	15	0	0
5.鶴見振興局裏	9:21	0	21.3	24.57	8.9	0	0	10	0
		2	21.2	33.14	8.5	0	2100	0	0
6.JF鶴見ポンツーン前	9:27	0	21.2	28.12	8.0	0	1	10	0
		1.8	21.1	32.81	8.3	0	650	0	0
7.石間	9:47	0	21.0	32.02	8.7	0	3800	0	0
		1	20.8	33.55	8.7	0	5200	0	0
8.守後	10:16	0	21.3	29.64	7.7	0	1	0	0
		1	21.3	32.83	8.2	0	850	0	0
9.霞ヶ浦	10:03	0	21.9	27.80	9.7	0	0	0	0
		1	22.1	30.76	9.5	0	0	0	0
10.片神	10:27	0	21.2	22.75	8.4	0	1	0	0
		2	21.5	32.79	8.9	0	420	0	0
11.水産試験場前	10:50	0	20.6	31.18	7.5	0	24	0	0
		3	20.7	33.38	7.9	0	210	0	0
12.彦島北沖	10:36	1	-	-	-	0	2,100	0	0

参考: マグロ類における赤潮注意・警戒密度(単位:細胞数/ml)

赤潮プランクトン	注意密度	警戒密度
シャットネラspp.	1以上	10以上
ヘテロシグマ・アカシオ	500以上	5000以上
カレニア・ミキモイ	20以上	200以上
コクロディニウム・ホリウロコイテス	3以上	30以上

\* 警戒密度は漁業被害が想定される密度です。  
\* 魚の生理状態や環境条件等によって、上記警戒密度より低密度でも被害を引き起こす可能性があります。

## 連絡事項

有害プランクトンのカレニア・ミキモイおよびヘテロシグマ・アカシオが確認されました。

カレニア・ミキモイは、佐伯湾全域で細胞密度が高い状況です。特に鶴見振興局裏、石間および彦島北沖は警戒密度を超えて非常に危険な状態です。

また、午前中に細胞密度が少なくても、午後から表層に集積し、高密度化する傾向が見られます。

魚介類の管理にはくれぐれも気をつけ

